

明治三十八年八月十五日

仔蟲を飼養する法

第九卷

三三二

無と云ふ有様なれば上曳の物も自然淺き所の動物或は其仔蟲多し尤も本年は上曳きにも種々に注意を用ひ極の表面、表面より數尺以下の處、潮流の劇しき處、潮流のよどみ居る處、干潮、満潮等の數項に注意し且つ集めたる塵埃^{ゴミ}の器底に沈澱したるを顯微鏡下にて調査する等の事をなしたれば普通は目に漏れたるエキノデルムの仔蟲等を多く見出したるやも知れず本年(八月十日迄の處)上曳にて取れたる物の内目立ちたる物は先づ左の如し

Lingula の仔蟲(一時は非常に多數)

Echinoderm の仔蟲(Phorus, Bipinnaria, Brachiolaria,

Auricularia, ナマコ類の樽形仔蟲、ナマコ類の

幼少にして五本の觸手を有する者(Cinnira)の有

柄仔蟲」上の内随分多數にありし者あり

Mitrania 數個(此仔蟲は本年六月箕作、五島か神奈

川にて見たるか本邦にて認められたる初めと思

ふ、よく搜索すれば三崎にもあり)

Achinotrocha 相應に多數

Tornaria 全上

Ptilium 全上

Doliolum 一二度非常に多數

Eridia(?) 二個 甚だ奇にして美麗なる Appendi-

cularia

Trachynotus 兩三度非常に多數

Compound Radiolaria 一度非常に多數

Appendicularia 可なり多數

之に反して Liriope (Cypridium Sagitta) の如きは少き方なり

▲仔蟲を飼養する法 如何なる故にや是迄三崎に

ては仔蟲を飼養發達せしむる事は極めて困難にて中途にて死する者多かりしが本年は少しく趣向を變へて飼養せ

しに仔蟲は殆んど皆壯健にして Achinotrocha は Phoro-

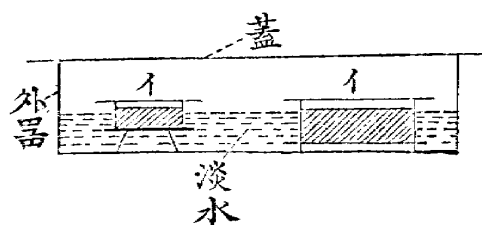
mis となり Tornaria は Balanoglossus に變じ Bipinnaria

はヒトデに發達したる者數個有りナマコ類の幼蟲にて

七月廿三日に上曳にて採りたる者今尙(八月九日)活潑

動物學雜誌 第六百號

なるものあり」其方法として別に六ヶ敷き事にもあらず仔蟲を相應に大なるガラス器(直徑一寸五分ヨリ)に納れ塵の入らざる様にガラス蓋を以て之を蓋ひ更に大なる器中(淡水ヲ)に入れ置くなり仔蟲の入れある器中の海水は少くも日に一回之を換へ大なる器中の淡水も同じく一日一二度は換へて成るべく之を冷やゝかになし置くなり其裝置を圖にて示せば左の如し要するに仔蟲を飼養し置く海



イ、イ、仔蟲を飼養するガラス器

水の量を相應に多くなし且つ之を熱せしめざるとに注意すれば事足るなり海中の量多く仔蟲小なれば別に淡水フットウツツの外器に入れる必要なきが如し又仔蟲等を扱ふに清潔に

して藥品等の附着し居らざるガラス管、ガラス器等を用ゆると肝要の如し(みつくり)

▲ラブカの捕獲 八月五日箕作、池田(岩治)乗込み熊氏のダボ繩を試みたる時東京灣中松輪燈臺ガケ那古二つと云ふ處深さ四百五十尋にて一疋のラブカを捕獲したり

▲無數のナマコ類幼兒 昆沙門沖三十尋の所に無數のナマコ類居りて百姓は之を取りて肥料とする程なり昨年原君は其多數を得られたりそのとなれば早速該處に趣きてトロールを試みたるに本年は如何に搜すも一疋も居らず大失望にて歸場せしか二三日經て其時持ち歸へりたる砂を見し人ありしが其中にハイドラ様の物數多居る事を見出したり依て之を檢せしに全く (Cnemidaria 一種の幼兒なり其數幾百なるやを知らず今尙ほ生活し居れり (八月十日)

▲Plankton 大舉して來襲す 勝敗は時の運として兵家の稱する所漁況も亦決して多獲、不漁を前知